

大鹿村 地域おこし協力隊

隊員の活動報告

木工体験交流施設 竹岡栄作隊員

こんにちは、地域おこし協力隊の竹岡です。早いもので大鹿に移住してきてからもうすぐ一年が経とうとしております。何も無かった倉庫を改修工事をして、塗装をして、機械を搬入し、看板を作り、入り口をつけて、間仕切りをつけて、やっと施設として形になってきたと感じております。

村民の方には見学に来て頂いたり、木材の加工等で施設を利用して頂き、当施設がどのような施設でどう

いったことが出来て、木材加工に於いていかに便利な施設かということが、少しずつご理解頂けてきたのではないかと思います。来年度はもっと親しみやすい施設にするため、さまざまな教室を開いたり、村のイベントに参加して、施設の紹介となるような事をもっとやっていければと考えております。

また、大鹿の名物となるような商品を開発し、村外から来られた方にも楽しんで頂けるようなモノ作りをしていきたいと思っております。まず最初にくるべんの製作に入っておりますが、昔ながらの製法で一人でコツコツと作るとなると、どうしても金額が高くなってしま(4万円以上)、観光客や歌舞伎を見に来られた方が衝動的に購入するのは難しくなっております。そこで、出来るだけ製造工程を簡略化し、塗装も漆ではなく別の塗料にすることでなんとか2万円台で販売で

きるよう、試行錯誤しているところです。

また、当施設をお店としての役割を充実させ、村外の方が大鹿に来る目的の一つとして頂けるような魅力あるお店、商品作りに取り組んで行きたいと思っております。

村外の方に当施設を知って頂く手段として、ホームページの開設も考えております。まずは、ブログとフェイスブックから始めたいと思います。村内に設置される予定の製材機を活用し、村内の森林資源の有効活用もしていく予定です。

3月末から大鹿村在住の作家や作り手さんが6組集まって展覧会を行います。ぜひ、お越し下さい。

『大鹿村を彩る手仕事展 Vol.3』
「標を愛でる」

開催日時：平成25年3月29日(金)～4月1日(月)午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで) 会場：かんてんぱぱホール(かんてんぱぱガーデン内)
出展者・団体『くうかん工



大鹿村木工体験交流施設【KASUGAI】
TEL.&FAX. 0265-39-2616
開館時間：9時～12時、13時～17時
休館日：月曜日、水曜日(祝日と重なる場合は翌日が休館日)その他、イベント等により臨時休館する場合があります。

房』『bhakti』『日中月心』『伊東直子』『大鹿村授産所』『大鹿村木工体験交流施設 KASUGAI』

塩の里直売所 大谷瑠里隊員

『卵割った時、黄身のまわりにある透明なところって何?』

先日会った料理人の方が小学生にこう聞かれたことがあるそうです。ちなみに、卵焼きとは市販のお弁当なんかによくついている真っ黄色なものが当たり前で、

きるのかと思えば虫食いや形の揃わないものも多い。こんな話をする野菜を作ってる方にはそんなことも知らんのかって笑われそうです。でも、大鹿村の方にとって当たり前のことを知らない人はたくさんいて、直売所に訪れたお客さんに豆の選別方法を話すと他の野菜のことも知りたいって方も少なくないです。

今年1年はまだまだ知らない大鹿村の農産物の知識を増やし、大鹿村に興味を持って訪れる方に「また来たい」と思っていただけのような魅力を伝えられるようにしたいです。昨年は野菜の話聞かせていただいた農家の皆様、村の歴史や料理のレシピなどを教えていただいた皆様には大変お世話になりました。今年も野菜の作り方から調理方法までささいなことも皆様にお聞きしに何うのでどうぞよろしくお願いいたします。



福祉サービ

永田幸太郎隊員

みなさん、こんにちは。地域おこし協力隊2年目の永田です。今年の冬は去年よりも

とても寒かったですように感じました。みなさんはどうでしたか?平成24年度もあつという間に過ぎてゆき、この協力隊新聞も今年度最後の報告となります。

今年度を振り返ってみると本当にいろいろなことがありました。個人的なことでは4人目の子供が生まれ家族が6人になりました。協力隊としては、細々とやってきた65歳



ひまわり会。みんなでお食事中。

ろしくお願ひします。「まめ大福」「ひまわり会」「安心サポート」での活動はいつも楽しく、大鹿村の自然の移り変わりや季節のたのしみを人生の大先輩達

以上のひとり暮らしの方の訪問「安心サポート」もやっと軌道に乗りました。私の他に3名の方がサポート員に加わっていただけました。

65歳以上というまだまだお元気な方も多いのですが住まわっている場所や様々な事情によって不便さを感じておられる方もあります。また、今年度は例年より雪が多かったこともあり除雪作業などたいへんであつたと感じております。

まだまだ訪問を終えていないお宅も多く、これから順次訪問させていただきますのでよろしくお願ひします。「まめ大福」「ひまわり会」「安心サポート」での活動はいつも楽しく、大鹿村の自然の移り変わりや季節のたのしみを人生の大先輩達

と共に感じ、学ばせていただいています。「昔の話なんて若い人にしたって・・・」と思っておられる方も多のですが、私はその頃のくらしやたのしみ、生活の知恵は宝物だと思っているのでもどんどん話していただきたいです。今後ともよろしくお願ひします。

来年度に向けてですが、「福祉」に携わる者として正しい知識や技術も身につけたいので「ヘルパー2級」を取ろうと思つています。他にもいろいろな勉強会や講習会に積極的に参加して成長していきたいと考えています。

今年度も多くの方々のお世話になり活動することが出来ました。それから私たち家族にたいへん親切にしてくださいありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

大鹿で過ごした3度目の冬。例年以上の寒さと雪で村民のみなさんもさぞかし辟易されたことだろう。そして、ようやく春の気配。三寒四温を繰り返しながらのゆつたりした季節の移り変わりが、大鹿らしくてなんとも心地良い時期である。しかし冬からこの時期に「旬のものは何ですか?」と問い掛けられると、少々答えに詰まってしまう。大鹿村は北部と違って雪が少なく、その半面強い冷え込みで地面が凍る。そのため、雪の下で保存・栽培される野菜などほとんどないと理解している。強いて言えば、ネギや大根がわずかに残るのみ。地元では凍み大根や干し椎茸を作る家も多いが、あくまで自家用程度の量ではないだろうか。

以前、あるセミナーで『「旬」は作るものでもある』という講演を聞いた。「旬の食べ物」とは青果や山菜だけではなく、加工品でさえ「この時期にしか作らない」という意味でもなく過ごす正月。それが、何よりの贅沢でありご馳走なのだ。考えてみれば、都会でそんな正月を味わう機会は減っているのだろう。村の振興と、観光による地域活性化。しかし本当はこのゆつたりした静かな雰囲気こそ、何より大切にすべき地域の宝なのかもしれない。

一方、大鹿村での2年間、村外への出張は160回を数える。地域の地域資源を発掘し、それらを活用して特産品を開発。さらには各方面への情報発信や都市との交流、農工商や産学官との連携など、地域振興の全般に関わってきたが事業としては「一区切り」といった雰囲気である。確かに、地域おこし協力隊の取組みは恒久的ではない。任期は最長3年間。定住促進という意味を持ちつつも、受け入れる地域や行政の主目的意識や長期的なビジョンがなければ単に一時的な事業に終わってしまうだろう。

役場産業建設課 高畑真二隊員

染みと、ただ何をするでもなく過ごす正月。それが、何よりの贅沢でありご馳走なのだ。考えてみれば、都会でそんな正月を味わう機会は減っているのだろう。村の振興と、観光による地域活性化。しかし本当はこのゆつたりした静かな雰囲気こそ、何より大切にすべき地域の宝なのかもしれない。

一方、大鹿村での2年間、村外への出張は160回を数える。地域の地域資源を発掘し、それらを活用して特産品を開発。さらには各方面への情報発信や都市との交流、農工商や産学官との連携など、地域振興の全般に関わってきたが事業としては「一区切り」といった雰囲気である。確かに、地域おこし協力隊の取組みは恒久的ではない。任期は最長3年間。定住促進という意味を持ちつつも、受け入れる地域や行政の主目的意識や長期的なビジョンがなければ単に一時的な事業に終わってしまうだろう。

間もなく大鹿村にも訪れる春の賑わい。これまでと変わらぬ華やかなその季節が、いっなくな寂しく感じられる今日この頃である。

次回発行月は未定です。